

半導体漫遊記

湯之上隆

117

東京エレクトロン(TEL)と米アブライドマテリアルズ(AMAT)の経営統合が破談となった。統合が実現すれば製造装置の世界シェア約25割を握る巨大連合となることから、米司法省の独占禁止当局が難色を示したことが直接の原因だと報道されている。

6月へと延期されていた。度重なる延期により、統合が疑問視され

AMATとの経営統合破談 TELの行く末に不安

まず、AMATにある戦略とは何か？

は、負のインパクトがあったと予想する。経営統合の際に、海外メディアは、「AMATがTELを買収すれば、TELを買収すれば」と報じていた。経営統合と報じたのは日本のメディアだけだ。私

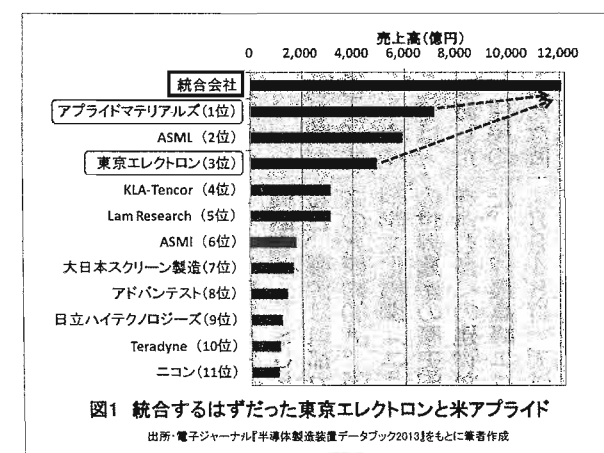
まず、AMATにある戦略とは何か？

現在の最先端の半導体インキービジネスは捕らぬたぬきの皮算用となった。AMATはじ

AMATは、TELを買収すれば、TELを買収すれば、TELは、安堵のため息をついているのでは

AMATは、TELを買収すれば、TELを買収すれば、TELは、安堵のため息をついているのでは

AMATは、TELを買収すれば、TELを買収すれば、TELは、安堵のため息をついているのでは



たはずだからだ。私は、TELの赤坂本社を訪問していたところ、異様な緊張感が漲っていたように思う。

不安材料がもう一つある。東哲郎会長兼社長が引責辞任するかも

TELの社員はホッとしていない。統合(もしくは買収)が失敗したことから、取締役会や株主が東氏に「No」を突き付けるかもしれないからだ。東氏が去ったら、果たして会長兼社長の任に就ける人材が今のTELにいるのだろうか？

今回は失敗したが、AMATは再び大胆な戦略を立てるだろう。例えば、露光装置の欄ASMILを買収するとい

TELの行く末が心配だ。このままですると落ちぶれていかなければいいのだが。(微細加工研究所・所長)